

## 盛り場・北二十四条

札幌の盛り場といえば何と云ってもススキノ。ここは全国レベルだ。で、ほかにはと聞かれるとちょっと返答に困る。「—いって上げればどこだろうね」と何人かに尋ねてみたら、「北二十四条かいわいかな」という返事が一番多かった。

「盛り場」と似た言葉に「繁華街」というのがある。盛り場というのは飲み屋さんを中心にした夜のにぎわいを感じさせるとし、繁華街は大小の商店が集まる昼間の人出のイメージが強い。

戦前からある商店街と違って、昔は家もまばらな田園地帯だったのが、ここ数十年の間に市内屈指のにぎやかな街に変貌したその代表といえば、繁華街としては新札幌、盛り場としては北二十四条かいわい、とあって良いだろう。

その北二十四条かいわいの中核施設であるサンブラザがこの秋、設立二十周年になり、祝賀のパーティも行なわれた。ここは劇場、プール、結婚式などのパーティ会場や大小の会合の部屋、宿泊施設、レストランなどのある総合施設。両隣りには北区役所もあって、いわば北区の顔の一つともいえる。北二十四条は夜だけじゃない、昼の顔だってしっかりあるんだよ、という代表格だ。

サンブラザのある場所はかつて市電の車庫だった。整備工場の壁とコンクリートの塀に囲まれて、何だか刑務所みたいな印象があった。今は、北大前の西五丁目通りに新琴似まで市電があった事を知らない人も増えた。

市電は長い間、北十八条が終点だったのが、戦後、外地から引き揚げて来る人や、戦場から帰還する人達で住宅が不足し、この北二十四条から北一帯に、公営の住宅を建てはじめたのがきっかけで人口がどんどん増え、昭和二十七年に市電は北二十四条まで延長、さらに三十年代には麻生まで伸びるという、市電全盛期をむかえたのだった。この公営住宅団地第一号のまわりに商店ができ、飲み屋が生まれ、というのがここが盛り場になるきっかけだ。以前はキャバレーもあった。今は大衆的だが品の良い店も増えた。昼も夜も人の流れは絶えない。ススキノより安く楽しめるのが取り柄というが、かつて一面のトウキビ畑だった昔をしのぶよすがはどこにもない。